プログラム

09:30	開場
10:00	**川はだれのものか** — 大川郷に鮭を待つ
11:50	休憩／50分
12:40	**3分ビデオ**
13:00	**有機農業が拓く地平** — インド ティンバクトゥの挑戦
13:35	山田勝巳追悼上映 **土の讃歌**
15:30	休憩／15分
15:45	トーク **百姓は時代を創る** — 流れに抗って 山形県長井市 菅野芳秀さん
16:45	休憩／15分
17:00	**小川町のべりカフェ**
17:25	**みんな生きなければならない**
19:00	閉会

※ 上映作品・時間など、やむを得ず変更する場合があります。
最新情報は、WEBサイトにてご確認ください。

参加費

一般	前売り 1500円／当日 2000円
25歳以下 （当日に身分証明証を提示）	前売り　500円／当日 1000円

※ チケットの再発行は致しませんので、
半券をなくさないようにしてください。

前売券の購入方法

下記WEBサイトまたはFAXから
11月30日（日）までにお申し込みください。

FAXでお申し込みの方は、代表者氏名、電話番号、返信先のFAX番号、参加人数（一般／25歳以下）をご明記ください。
こちらから振込先をご案内します。
入金の確認をもってお申し込みは完了となります。
なお前売り券の入金期限は12月5日（金）です。

※ 迷惑メールの設定をしている方は「ticket@yuki-eiga.com」のメールが受信できる様、設定をお願いいたします。
※ WEBからのお申し込み後、10分過ぎても返信が届かない場合は迷惑メールホルダーおよび迷惑メールの設定確認をお願いします。
※ FAXからお申し込み後、3日過ぎても返信が届かない場合はお問い合わせ下さい。
※ 定員になり次第締切ります。

お申し込み

[web] www.yuki-eiga.com　または　[fax] 020-4665-2232

お問い合せ

〒169-0051　東京都新宿区西早稲田 1-9-19-207
国際有機農業映画祭事務局
[e-mail] info@yuki-eiga.com　[fax] 020-4665-2232
※ 武蔵大学へのお問い合わせはご遠慮ください。

主催　国際有機農業映画祭運営委員会
協力　NPO法人 アジア太平洋資料センター
NPO法人 日本有機農業研究会／東京ピースフィルム倶楽部

[web] www.yuki-eiga.com　[e-mail] info@yuki-eiga.com

電車

西武池袋線「江古田駅」より
徒歩7分

西武池袋線「桜台駅」より徒歩8分

都営大江戸線「新江古田駅」より
徒歩9分

東京メトロ副都心線、
東京メトロ有楽町線
「新桜台駅」より徒歩7分

バス

中野駅より関東バス江古田駅行
約30分「江古田駅」下車徒歩5分

高円寺駅より関東バス・
国際興業バス赤羽駅行約20分
「豊玉北」下車徒歩5分

目白駅より
都営バス練馬車庫行約30分
「武蔵大学前」下車徒歩0分

Twitter、Facebook
でも情報発信中！

川はだれのものか — 大川郷に鮭を待つ　2014年／日本

有機農業が拓く地平 — インド ティンバクトゥの挑戦　2012年／インド

土の讃歌　2012年／米国

小川町のべりカフェ　2014年／日本

みんな生きなければならない　1984年／日本

流れに抗う

あらが

第8回 INTERNATIONAL FILM FESTIVAL ON ORGANIC FARMING

国際有機農業映画祭 2014

12月14日（日）武蔵大学
江古田キャンパス1号館（B1）1002シアター教室

主催｜国際有機農業映画祭運営委員会
www.yuki-eiga.com｜Twitter、Facebookでも情報発信中！

トーク
百姓は時代を創る
―流れに抗って
山形県長井市
菅野芳秀さん

第8回

流れに抗う

国際有機農業映画祭2014

INTERNATIONAL FILM FESTIVAL ON ORGANIC FARMING

12月14日(日) 9:30 開場

武蔵大学 江古田キャンパス1号館(B1) 1002シアター教室

経済成長の真っ只中の70年代初頭、
日本の有機農業運動は誕生しました。
大きさと便利さを競いあう時代でした。

自然と向き合う生業だったはずの農業も、
例外ではありませんでした。
規模拡大と生産性の向上が
侵すことのできない神話となり、
大量の合成化学物質が自然界にばらまかれ、
いのちを内側から食い散らしていました。
有機農業運動はそうした時代の神話への抵抗でした。
全国各地の田んぼで畑で、
さまざまの試みが積み上げられました。
虫にやられ、病気にやられ、ときにあざけられ、
そんな試行錯誤のなかから
“もうひとつの農業”が創られたのです。

いま、もうひとつの神話が
地球上を駆けめぐっています。
“世界が市場だ、そこで勝ち抜け”。
そのために有機農業を含む小さい農業、
百姓の農業は邪魔ものとして
淘汰の対象になっています。
いまこそ有機農業の原点ともいえる“抗いと創造”を
取り戻したい、そんな思いを込めて
運営委員一同、2014年国際有機農業映画祭と
取り組んでいます。12月14日、お逢いしましょう。

国際有機農業映画祭運営委員会
共同代表
大野和興

1 10:00 川はだれのものか ―― 大川郷に鮭を待つ

2014年／日本／99分
監督：菅豊　企画・演出：菊地文代、前島典彦
制作：株式会社 周

新潟県村上市山北地区の大川流域で 300年以上続く「コド漁」と呼ばれる伝統的サケ漁の１年を記録。ルールを守り、川の恵みを、漁の喜びを分かち合う人びと。抑揚を抑えたカメラワークが、そのイキイキとした姿を際立たせ、自然のありがたさと、分かち合う幸せに気づかせてくれる。自然と人、人と人とが共生する営みは、有機農業と軌を一にする。

2 12:40 3分ビデオ リレー上映

「流れに抗う」のテーマで広く募集した作品の中から、自然や環境、有機農業や食、暮らしの映像を上映。
（1作品３分以内）

3 13:00 有機農業が拓く地平 ―― インド ティンバクトゥの挑戦

原題：Timbaktu

2012年（日本語字幕PARC 2014年）/インド/30分
監督：リントゥ・トーマス　サシュミット・ゴシュ
制作：ブラック・ティケット・フィルムス

南インドのアンドラプラデーシュ州アナンタプール地区で有機農業を営む共同グループ「ティンバクトゥ」。「緑の革命」がもたらした化学肥料や農薬が、自然の生産力を奪い、多くの農民を経済的に追い詰めてきた現実や、大企業による種子の独占、加工食品の消費拡大に警鐘を鳴らすとともに、農や食を人びとの手に取り戻していくための実践と思想を追った作品。「ティンバクトゥ」とは、「大地が空と出会う場所」という意味。

4 13:35 土の讃歌

山田勝巳追悼上映

原題：Symphony of the Soil

2012年／米国／104分
監督：デボラ・クーンズ・ガルシア
制作：リリーフィルム

いのちは化学農業の氾濫によって脅かされ、塩害と土壌流亡によって耕作地は毎年 1000 万 ha のスピードで消失している。かつ人口増加の中で、生き方の選択を迫られていると。最新土壌学を駆使して土の誕生から変遷、土の多様性などを説き、各地の異なる土の景観を映し、豊かな土壌がいかに環境を改善し、いのちを育むか、ミクロとマクロの映像で語る。

『土の讃歌』は、国際有機農業映画祭の運営委員山田勝巳さんが翻訳した遺作。農業の傍ら、海外の有機農業や健康に関わる映画や書籍を見い出し翻訳紹介。国際有機農業映画祭で6作品を上映。

2012年11月2日、『土の讃歌』本邦初公開の上映会で。山田さん（左）と助監督のジェシカ・ベケットさん。
撮影：中村易世

★日本有機農業研究会のブースで山田さんが手がけた書籍、DVDを販売します。

5 15:45 百姓は時代を創る ―― 流れに抗って

トーク

山形県長井市
菅野芳秀さん

いま、山形・置賜で“静かな革命”が始まろうとしています。地域を丸ごと食と住とエネルギーと人の自給圏にしてしまおうという試みです。その構想の提唱者であり推進者である菅野芳秀さんをゲストに迎え、ひとりの百姓として、今に至る運動と思想の遍歴をお聞きします。

かんの よしひで 1949年、山形県長井市生まれ。青年時代、三里塚や沖縄で百姓や漁師の土地と海を守る闘いに関わった後、故郷に帰り代々農業を継ぐ。アジア農民交流センターやTPPに反対する人々の運動の共同代表。置賜百姓交流会世話人。長井市の生ゴミリサイクルのレインボープラン推進。著書に『生ゴミはよみがえる』『玉子と土といのちと』ほか。

6 17:00 小川町のべりカフェ

2014年／日本／20分
監督：内田一夫

自給を中心とした循環農業をすすめる埼玉県小川町の NPO 生活工房「つばさ・游」が企画運営する「べりカフェ」は、地元の有機野菜が主役。作り手もメニューも日替わりで、卵かけご飯からピザまで得意料理が提供される。立ち上げた一人・金子友子さんは「有機野菜のよさを食べてわかってもらえるお店を作りたかった」という。地元の一番安全な野菜を食べる。その場をみんなでつくりあげる―有機農業あっての醍醐味だ。

7 17:25 みんな生きなければならない

1984年／日本／80分
企画・撮影：菊地周　構成：亀井文夫

戦後の食糧増産に、指導的役割を担ってきた東京都世田谷区の大平農園。しかし、先代は農薬禍で病死し、主人公の大平博四さん自身も失明寸前に。「昔の農業に戻ろう」という母親の一言で、土づくりに取り組む日々が始まる。その畑の生き物たちの記録は、「あらゆる生き物は共にある」ことを見事に映し出す。社会派ドキュメンタリスト亀井文夫が行き着いた共生の思想の遺言フィルム。

おいしい♪ うれしい♪ たのしい♪

今年も出ます! 有機なブース

有機農産物・加工品
関連書籍・グッズ……
そして有機な人びと

ホール内は飲食禁止です。
別に飲食スペースを用意いたします。
お弁当持参歓迎。